

【附属資料 1】

来訪者管理戦略に基づく実施計画書（素案）
（収容力の調査・研究報告）

平成 30 年 月
富士山世界文化遺産協議会

目 次

1章 計画策定の経緯・目的等	1
1. 計画策定の経緯	1
2. 来訪者管理戦略	1
3. 計画の目的と構成	2
2章 調査研究結果の概要	4
1. 調査概要	4
2. 調査研究結果のまとめ	4
3章 上方の来訪者管理の方向性	11
1. 17世紀以来の登拝に起源する登山の文化的伝統の継承	11
2. 登山道及び山頂付近の良好な展望景観の維持	11
3. 登山の安全性・快適性の確保	11
4章 指標・水準の設定	13
1. 指標・水準の選定	13
2. 登山者数に関する指標・水準の設定について	16
5章 対策の実施	25
6章 モニタリングの実施	33
1. 基本方針	33
2. 方法	33
7章 計画期間と推進体制	37
1. 計画期間	37
2. 計画改定の視点（指標・水準の見直しに向けて）	37
3. 推進体制	37
<参考資料>	39

1章 計画策定の経緯・目的等

1. 計画策定の経緯

- 2013年(平成25年)6月、第37回ユネスコ世界遺産委員会は、「富士山 - 信仰の対象と芸術の源泉」(以下「富士山」という。)の世界遺産一覧表記載に係る決議(37COM8B.29)において、6つの勧告a)~f)を付議した。
- そのうちの勧告c)において、世界遺産委員会は、日本政府に対し、上方の登山道の収容力を研究し、その成果に基づき来訪者管理戦略を策定することを求めた。
- これを受け、2016年(平成28年)1月27日(パリ時間)、日本政府は、ユネスコ世界遺産センターに対して、来訪者管理戦略等の策定状況等を示した保全状況報告書を提出した。
- 来訪者管理戦略では、目標として定めた「望ましい富士登山の在り方」を実現するために、PDCAサイクルを利用した管理システムを適切に運用していくことや、2015年(平成27年)から3年間、夏季における五合目以上の登山者に関する調査研究を継続して実施し、2018年(平成30年)7月までに、登山者数を含めた複数の指標等を設定した上で、来訪者管理の着実な前進・改善を図ることを示した。

2. 来訪者管理戦略

日本政府が、2016年(平成28年)1月にユネスコ世界遺産センターへ提出した保全状況報告書に記述した来訪者管理戦略の概要は、以下のとおりである。

- ユネスコ世界遺産センター発行の「世界遺産における来訪者管理～世界遺産管理マニュアル」や海外の国立公園の先進事例を参考として、目標や目的を設定し、指標を設けて、結果をモニタリングする。(図1)
- 多様な登山形態の下で登山を行う登山者が、富士山の顕著な普遍的価値の側面を表す「神聖さ」・「美しさ」の双方の性質を実感できることが重要であるとの観点から、「上方の登山道の収容力」に着目しつつ、来訪者管理戦略の目標として、以下の「望ましい富士登山の在り方」を定める。

17世紀以来の登拝に起源する登山の文化的伝統の継承

- ・ 頂上付近で御来光を拝む場合には、途中の山小屋で宿泊・休憩していること
- ・ 特定された山麓の巡礼路・登山道からの登山が行われていること
- ・ 山麓の神社・霊地等と登山道とのつながりが認知・理解されていること

登山道及び山頂付近の良好な展望景観の維持

- ・ 山小屋・防災関連の施設等の登山者のための施設が自然と調和していること
- ・ 浸食・植生等の変化による展望景観への影響が抑制されていること

登山の安全性・快適性の確保

- ・ 登山装備・登山マナー等が理解されていること
- ・ 過剰な登山者数による混雑・危険・不満を感じない登山ができること

- 「望ましい富士登山の在り方」を実現するために、2015年（平成27年）から2017年（平成29年）の3年間、「上方の登山道の収容力」を中心とした調査・研究を実施し、2018年（平成30年）7月までに、登山道ごとの1日当たりの登山者数を含め、登山の文化的伝統の継承、展望景観の維持、登山の安全性と快適性の確保の3つの視点に基づく複数の指標と指標ごとの水準を設定する。
- 特定の日・時間帯に山頂に集中する登山者数の平準化や登山者の安全確保のための情報提供等の施策を実施するとともに、情報提供戦略との緊密な連携の下、構成資産相互のつながりの認知・理解を促進し、来訪者及び登山者の山麓の構成資産への誘導及び周辺観光地を含めた山麓地域への周遊を推進する。
- 2015年（平成27年）を起点として、概ね5年毎に、施策及び指標の評価・見直しを行い、来訪者管理の着実な前進・改善を図る。

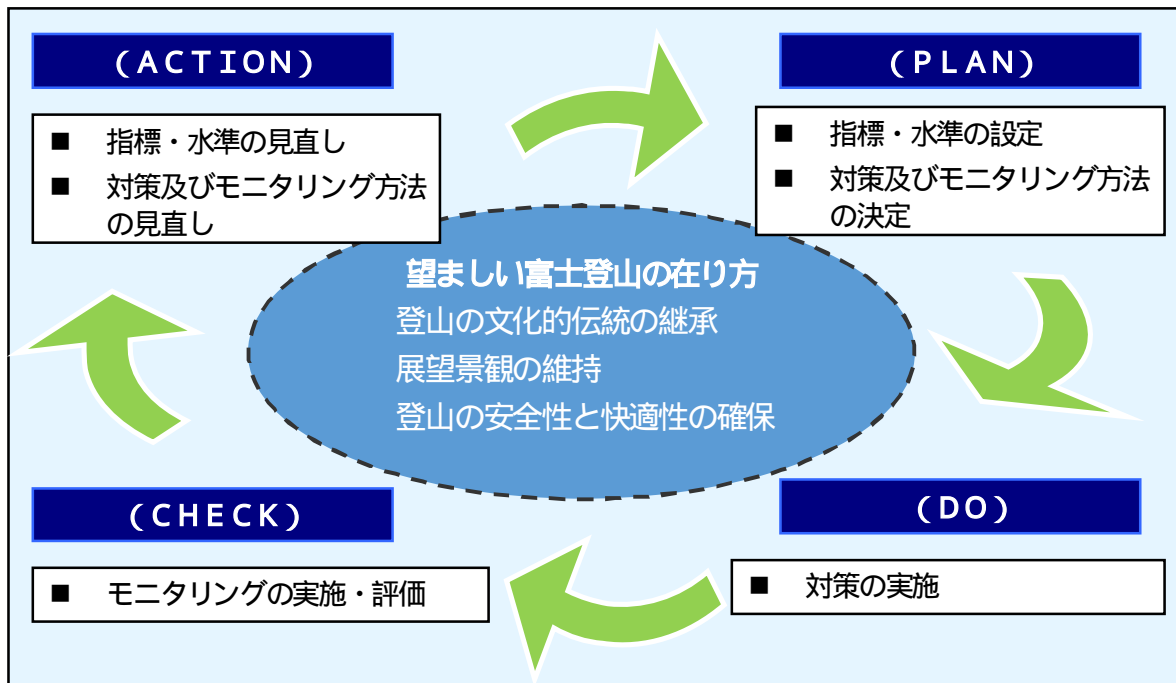


図 1 富士山の来訪者管理の仕組み

3. 計画の目的と構成

- 以上を踏まえ、世界遺産委員会からの要請に対応するとともに、上方の登山道の来訪者管理を将来にわたり適切に運用していくため、実施計画（以下、「本計画」という。）を策定する。

- 本計画は、2016年（平成28年）1月にユネスコ世界遺産センターへ提出した来訪者管理戦略に基づき、上方の登山道の収容力の調査研究結果を踏まえ、指標及び水準を設定するとともに、水準の達成を目的とした対策及びモニタリング方法を具体的に定めるものである。
- なお、本計画は、図1に示したP D C Aサイクルを利用した管理システムの“ P L A N ”に該当するものであり、対策の実施状況や水準の達成状況等を踏まえ、必要に応じて見直しするものとする。
- 本計画は図2に示すような構成・構造を持ち、各章の内容については以下に示すとおりである。

1章では、計画策定の経緯、来訪者管理戦略の概要、計画の目的、計画の構成・構造について述べる。

2章では、2015年（平成27年）から実施してきた上方の登山道の収容力を中心とした調査研究結果の概要についてまとめる。

3章では、1章及び2章を踏まえ、来訪者管理の方向性について示す。

4章では、2章及び3章を踏まえ、「望ましい富士登山の在り方」の実現に向けた指標・水準について示す。

5章では、指標ごとに定めた水準を達成するために実施する対策について示す。

6章では、水準の達成状況を把握するために実施するモニタリングの具体的方法、実施主体等について示す。

7章では、本計画の実施スケジュール、推進体制を明示する。

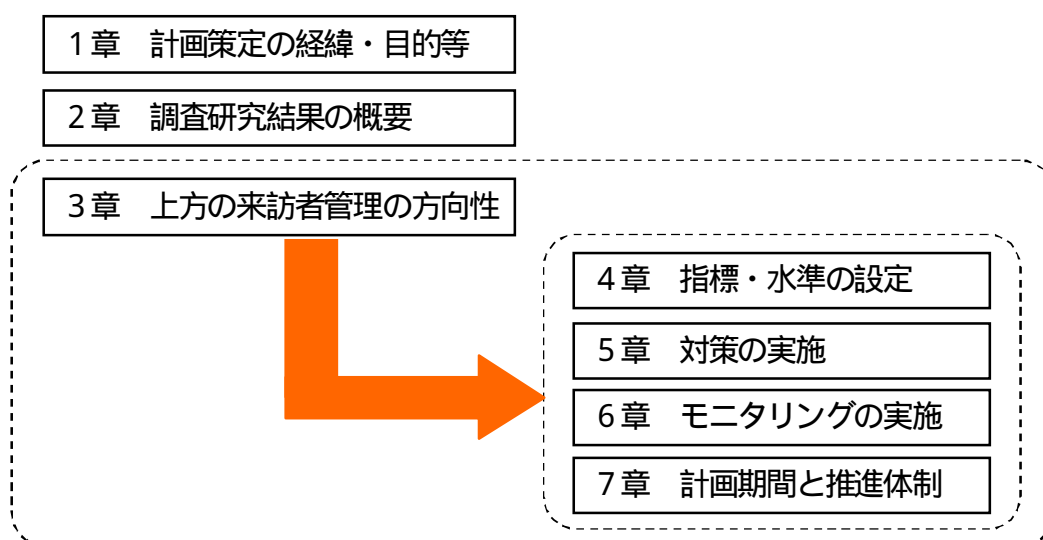


図 2 計画の構成・構造

2章 調査研究結果の概要

本章においては、山梨県・静岡県が2015年（平成27年）から2017年（平成29年）の3年間継続して実施した、夏季における五合目以上の登山者の意識調査・動態調査等の調査研究結果の概要についてまとめる。

1. 調査概要

「上方の登山道の収容力」の調査研究として実施した各種調査の概要は、以下のとおりである。

表 1 調査一覧

区分	内容	実施年
アンケート調査	満足度、混雑・危険箇所等に対する評価、再来訪意向等について下山時または下山後に回答してもらうことで登山者の意識を把握。	2015年（平成27年） 2016年（平成28年） 2017年（平成29年）
GPSロガー調査	登山者にGPSロガーを携行してもらい、登山中の位置情報（緯度・経度・標高）と速度を5秒毎に記録し、登山者の動態を把握。	2015年（平成27年） 2016年（平成28年） 2017年（平成29年）
現地調査	現地調査員が目視、写真撮影、人数カウント等により御来光時間帯の混雑箇所の実態を把握。	2017年（平成29年）
定点撮影調査	富士宮口及び吉田・須走口登山道の山頂付近にカメラを設置し、15分毎、5秒毎に撮影した画像により混雑状況を把握。	2015年（平成27年） 2016年（平成28年）
WEBアンケート調査	インターネットモニターを活用し、混雑に対する意識を把握。	2015年（平成27年）

2. 調査研究結果のまとめ

（登山者意識）

- 「富士山に「神聖さ」を感じた」、「巡礼した後に登山する文化的伝統を知っている」と回答した登山者は、登山者数に関係なく一定割合存在する。
- 登山者数に比例して、「登山道や山頂付近の人の多さが許容できない」、「危険を感じた」と回答する登山者の割合が増加する傾向にある。

（登山者の動態）

- 週末やお盆の御来光前後の時間帯において、吉田・須走口合流地点より上方及び富士宮口山頂直下に登山者が集中し、著しい混雑が発生している。（特定の日・時間帯・箇所に登山者が集中する。）

- 平日やその他の時間帯は、登山者が比較的スムーズに流れる傾向にある。吉田・須走口の山頂直下において、御来光直前に一部混雑が発生する。

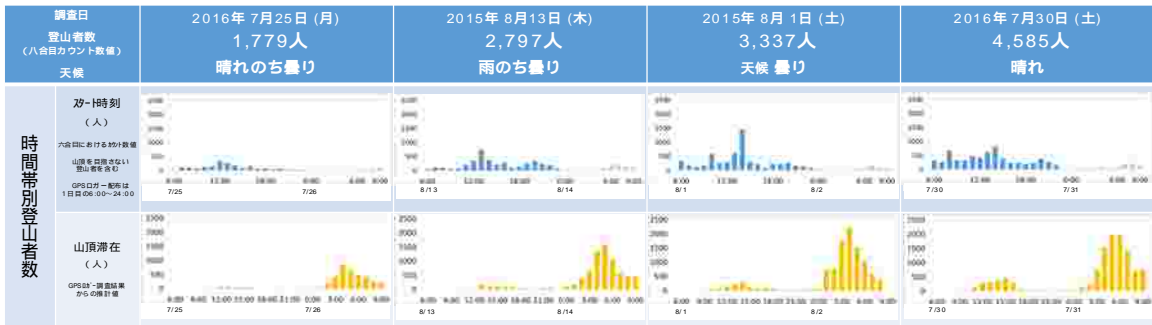
<参考> 登山道別の調査結果概要

調査結果概要 (登山者の登山動向: 吉田口)

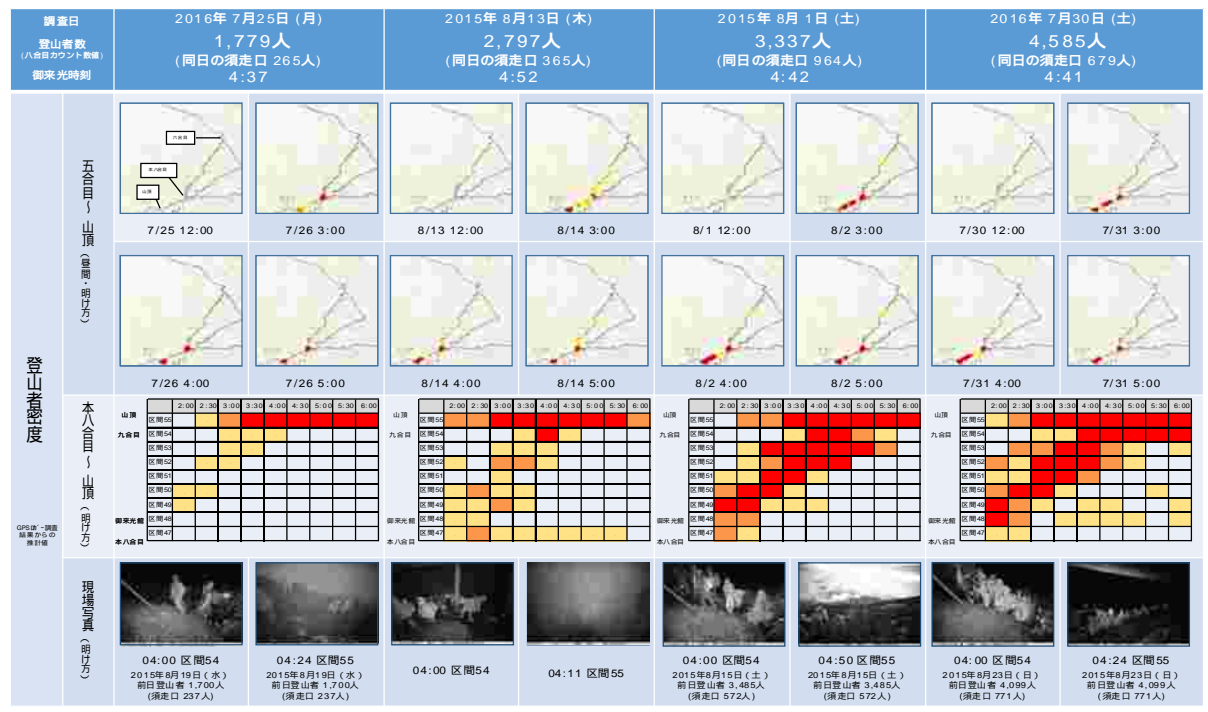
夏山全期間の状況



2015年～2016年で調査した10日間のうち、の(中央値)・(第3四分位数)・(第3四分位数と最大値の間)・(最大値)に近い日の状況



中央値とは、データを小さい順から並べた時に中央に位置するものの値。第3四分位数とは、同様並べた時に4分の3番目に位置するものの値。



当日の現場写真がない日は、登山者数の近い別の日の写真を用いている。

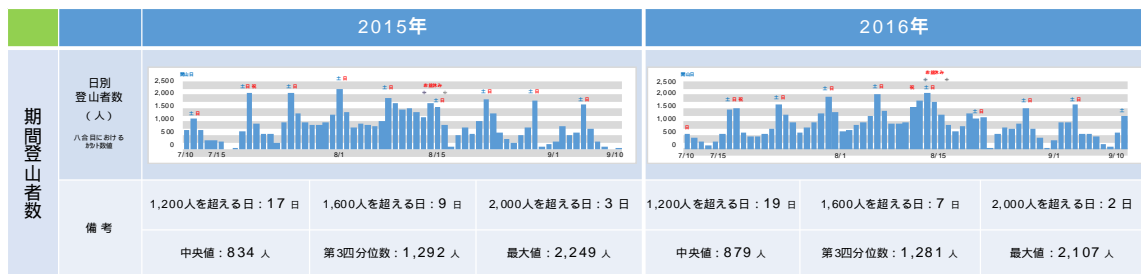
密度 1~2人/m 2~3人/m 3人/m以上

調査日	2016年7月25日(月)	2015年8月13日(木)	2015年8月1日(土)	2016年7月30日(土)	
登山者数 (八合目カウント数)	1,779人 (同日の須走口 265人)	2,797人 (同日の須走口 365人)	3,337人 (同日の須走口 964人)	4,585人 (同日の須走口 679人)	
所要時間 GPS計測	御来光籠上へ 11時～15時 44分	11時～15時 51分	11時～15時 48分	11時～15時 52分	
	山頂直下 [500m] 2時47分～3時47分 (御来光時の2～1時間前) 70分	2時52分～3時52分 (御来光時の2～1時間前) 82分	2時42分～3時42分 (御来光時の2～1時間前) 95分	2時41分～3時41分 (御来光時の2～1時間前) 118分	
登山者意識	登山道の人の多さが許容できない/あまり許容できない 13.0%	登山道の人の多さが許容できない/あまり許容できない 23.2%	登山道の人の多さが許容できない/あまり許容できない 36.2%	登山道の人の多さが許容できない/あまり許容できない 42.6%	
	混雑・危険 回答割合	山頂の人の多さが許容できない/あまり許容できない 16.5%	山頂の人の多さが許容できない/あまり許容できない 23.1%	山頂の人の多さが許容できない/あまり許容できない 31.3%	山頂の人の多さが許容できない/あまり許容できない 35.2%
	満足・感想 回答割合	無理な道しるしによる危険があった 12.3%	無理な道しるしによる危険があった 30.6%	無理な道しるしによる危険があった 24.5%	無理な道しるしによる危険があった 23.4%
	登山者7カテゴリー	今回の富士登山にとても満足 47.4%	今回の富士登山にとても満足 57.8%	今回の富士登山にとても満足 50.2%	今回の富士登山にとても満足 51.7%
解説	1 御来光時、山頂付近にガスがかかり、御来光が十分望めなかった。	2 この日は、登山経験初心者のアンケート割合が半数近くを占めたことから、富士山に関する知識を有する人が相対的に少なかったことが推測される。	3 御来光前に山頂に到達する登山者が本八合目から山頂にかけて連なる状況が発生する。山頂滞在は御来光前後に大きなピークがあり、日中にも小さなピークがある。	4 御来光前に山頂に到達する登山者が本八合目から山頂にかけて連なる状況が発生する。山頂滞在は御来光前後に大きなピークがある。また、御来光時間帯の所要時間が平日に比べて約1.4倍～2倍となる。	

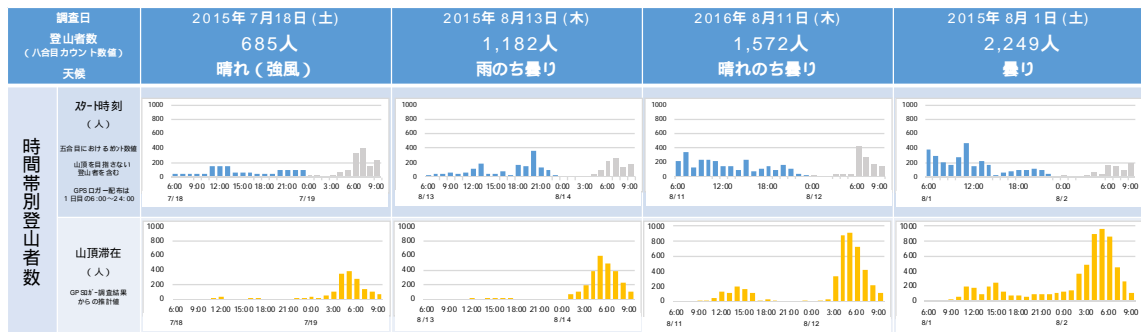
所要時間の結果は、GPSロゴ保持者の中央値を採用。

調査結果概要 (登山者の登山動向:富士宮口)

夏山全期間の状況



2015年～2016年で調査した10日間のうち、の(中央値)・(第3四分位数)・(第3四分位数と最大値の間)・(最大値)に近い日の状況



中央値とは、データを小さい順から並べた時に中央に位置するものの値。第3四分位数とは、同様並べた時に4分の3の目目に位置するものの値。

調査日		2015年7月18日(土)	2015年8月13日(木)	2016年8月11日(木)	2015年8月1日(土)
登山者数 (八合目カウント数値)		685人 4:32	1,182人 4:52	1,572人 4:51	2,249人 4:42
登山者密度	五合目～山頂(曇間・明け方)				
	九合目～山頂(明け方)				
	GPSログ・観望 結果からの 要時間				
	現場写真(明け方)	 04:31 区間40 2015年8月24日(月) 前日登山者 619人	 04:30 区間40	 04:17 区間40 2015年8月16日(日) 前日登山者 1560人	 04:43 区間40 2015年8月23日(日) 前日登山者 1839人
<p>当日の現場写真がない日は、登山者数の近い別の日の写真を用いている。</p> <p>密度 ■ 1-2人/m ■ 2-3人/m ■ 3人/m以上</p>					

調査日		2015年7月18日(土)	2015年8月13日(木)	2016年8月11日(木)	2015年8月1日(土)
登山者数 (八合目カウント数値)		685人	1,182人	1,572人	2,249人
所要時間	GPSログ・調査	11時～15時 2時32分～3時32分 (御来光時の2～1時間前)	11時～15時 2時52分～3時52分 (御来光時の2～1時間前)	11時～15時 2時51分～3時51分 (御来光時の2～1時間前)	11時～15時 2時42分～3時42分 (御来光時の2～1時間前)
	所要時間	59分 68分 70分	52分 79分 88分	58分 79分 83分	70分 110分 83分
登山者意識	混雑・危険 回答割合	登山者の人の多さが許容できない/あまり許容できない 14.5 % 山頂の人の多さが許容できない/あまり許容できない 15.9 % 無理な追い越しによる危険があった 18.1 %	登山者の人の多さが許容できない/あまり許容できない 14.1 % 山頂の人の多さが許容できない/あまり許容できない 20.4 % 無理な追い越しによる危険があった 30.4 %	登山者の人の多さが許容できない/あまり許容できない 19.4 % 山頂の人の多さが許容できない/あまり許容できない 16.2 % 無理な追い越しによる危険があった 16.6 %	登山者の人の多さが許容できない/あまり許容できない 23.0 % 山頂の人の多さが許容できない/あまり許容できない 21.0 % 無理な追い越しによる危険があった 29.0 %
	満足・感想 回答割合	今回の富士登山にとても満足 41.1 % トイレの数や設備にとても不満/やや不満 15年調査なし 山小屋のサービス・雰囲気にとっても不満/やや不満 15年調査なし 登山を通じて富士山に「神聖さ」を感じた/少し感じた 84.5 %	今回の富士登山にとても満足 40.3 % トイレの数や設備にとても不満/やや不満 15年調査なし 山小屋のサービス・雰囲気にとっても不満/やや不満 15年調査なし 登山を通じて富士山に「神聖さ」を感じた/少し感じた 81.5 %	今回の富士登山にとても満足 54.3 % トイレの数や設備にとても不満/やや不満 16.1 % 山小屋のサービス・雰囲気にとっても不満/やや不満 11.4 % 登山を通じて富士山に「神聖さ」を感じた/少し感じた 94.2 %	今回の富士登山にとても満足 46.2 % トイレの数や設備にとても不満/やや不満 15年調査なし 山小屋のサービス・雰囲気にとっても不満/やや不満 15年調査なし 登山を通じて富士山に「神聖さ」を感じた/少し感じた 83.3 %
	登山者 アンケート	その他 回答割合	巡礼後に登山する文化的伝統を知っていた/今回の登山で知った 26.7 % 登山中にゴミをよく見かけた 15年調査なし 山小屋に宿泊した 50.0 % 山頂で御来光を見た 20.1 %	巡礼後に登山する文化的伝統を知っていた/今回の登山で知った 29.6 % 登山中にゴミをよく見かけた 15年調査なし 山小屋に宿泊した 42.2 % 山頂で御来光を見た 29.1 %	巡礼後に登山する文化的伝統を知っていた/今回の登山で知った 40.6 % 登山中にゴミをよく見かけた 29.9 % 山小屋に宿泊した 48.9 % 山頂で御来光を見た 47.0 %
解説		<ul style="list-style-type: none"> 登山前後に登山を開始する人、御来光前後に山頂に滞在する人が多いが、いずれも大きなピークではない。 九合目から山頂にかけて、登山者の集中が散見されるが、集中箇所が連なることはない。 登山者数685人の調査日と比較して、密度の高まりが見られるが、大きく状況は変わらない。 	<ul style="list-style-type: none"> 登山前後に登山を開始する人が多い。山頂滞在は御来光前後が多いが、午後にも小さなピークがある。 九合目から山頂にかけて、登山者の集中が散見されるが、集中箇所が連なることはない。 山頂直下は、3時半過ぎから密度の高まりが継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> 早朝と登山前後に登山を開始する人が多い。御来光前後に大きなピークがあるが、山頂滞在は登山前後にも小さなピークがある。 登山者の集中箇所が連なることはないが、山頂直下については午前2時過ぎから御来光後の午前6時頃までに登山者が通過している。 	
<p>所要時間の結果は、GPSログ・保持者の中央値を採用。</p>					

調査結果概要 (登山者の登山動向: 御殿場口)

夏山全期間の状況

		2015年			2016年		
期間登山者数	日別登山者数(人) <small>八合目における日別数値</small>						
	備考	400人を超える日: 13日	600人を超える日: 3日	800人を超える日: 0日	400人を超える日: 13日	600人を超える日: 0日	800人を超える日: 0日
		中央値: 197人	第3四分位数: 375人	最大値: 793人	中央値: 248人	第3四分位数: 394人	最大値: 557人

2015年～2016年で調査した10日間のうち、の(中央値)・(第3四分位)・(最大値)に近い日

調査日	2015年7月27日(月)	2016年8月11日(木)	2016年7月30日(土)	
登山者数(八合目カウント数値)	200人	485人	550人	
天候	晴れのち曇り	晴れのち曇り	晴れ	
時間帯別登山者数	夕-H時刻(人) <small>五合目における時刻別数値 山頂を通過しない登山者を含む GPSログ-撮影は1日06:00-24:00</small>			
	山頂滞在(人) <small>GPSログ-調査結果からの算出値</small>			

中央値とは、データを小さい順から並べた時に中央に位置するものの値。第3四分位数とは、同様に並べた時に4分の3番目に位置するものの値。

調査日	2015年7月27日(月)	2016年8月11日(木)	2016年7月30日(土)				
登山者数(八合目カウント数値)	200人	485人	550人				
御来光時刻	4:38	4:51	4:41				
登山者密度	五合目～山頂(高・明け方)						
	八合目上～山頂(明け方)						
	現場写真(明け方)	撮影無し		撮影無し		撮影無し	

密度 1-2人/m 2-3人/m 3人/m以上

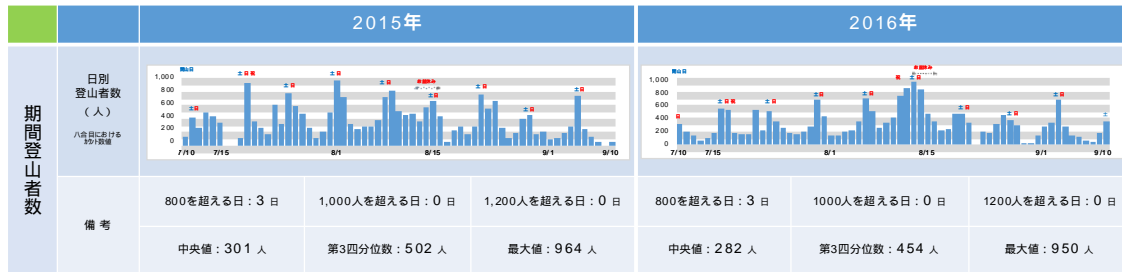
調査日		2015年7月27日(月)		2016年8月11日(木)		2016年7月30日(土)	
登山者数 (八合目カウント数値)		200人		485人		550人	
所要時間 GPS調査	八合目上～山頂直下 [800m]	11時～15時 2時38分～3時38分 (御来光時の2～1時間前)	45分	11時～15時 2時51分～3時51分 (御来光時の2～1時間前)	56分	11時～15時 2時41分～3時41分 (御来光時の2～1時間前)	54分
		3時38分～4時38分 (区間84～91)	69分	3時51分～4時51分 (御来光時の1時間前～御来光時)	64分	3時41分～4時41分 (御来光時の1時間前～御来光時)	60分
			-分 ログ=記録者がいない かつGPSデータなし	87分		75分	
登山者意識	混雑・危険回答割合	登山道の人の多さが許容できない/あまり許容できない	2.6%	登山道の人の多さが許容できない/あまり許容できない	4.8%	登山道の人の多さが許容できない/あまり許容できない	26.9%
		山頂の人の多さが許容できない/あまり許容できない	3.0%	山頂の人の多さが許容できない/あまり許容できない	20.0%	山頂の人の多さが許容できない/あまり許容できない	23.3%
		無理な追い越しによる危険があった	0.0%	無理な追い越しによる危険があった	4.8%	無理な追い越しによる危険があった	19.0%
	満足・感想回答割合	今回の富士登山にとても満足	52.6%	今回の富士登山にとても満足	64.5%	今回の富士登山にとても満足	63.5%
	トイレの数や設備にとても不満/やや不満	15年調査なし	トイレの数や設備にとても不満/やや不満	33.3%	トイレの数や設備にとても不満/やや不満	27.1%	
	山小屋のサービス・雰囲気とても不満/やや不満	15年調査なし	山小屋のサービス・雰囲気とても不満/やや不満	5.6%	山小屋のサービス・雰囲気とても不満/やや不満	6.5%	
	登山を通じて富士山に「神聖さ」を感じた/少し感じた	77.5%	登山を通じて富士山に「神聖さ」を感じた/少し感じた	85.5%	登山を通じて富士山に「神聖さ」を感じた/少し感じた	88.9%	
登山者7ヶト	その他回答割合	巡礼後に登山する文化的伝統を知っていた/今回の登山・訪問で知った	30.0%	巡礼後に登山する文化的伝統を知っていた/今回の登山・訪問で知った	33.9%	巡礼後に登山する文化的伝統を知っていた/今回の登山・訪問で知った	44.5%
		登山中にゴミをよく見かけた	15年調査なし	登山中にゴミをよく見かけた	14.8%	登山中にゴミをよく見かけた	14.3%
		山小屋に宿泊した	43.6%	山小屋に宿泊した	55.7%	山小屋に宿泊した	34.9%
		山頂で御来光を見た	21.1%	山頂で御来光を見た	50.0%	山頂で御来光を見た	55.2%
解説		◆午前中に登山を開始する人がほとんどである。御来光前後に山頂に滞在している人が多い。ピーク時の人数はいずれも少ない。 ◆五合目から山頂までの場所においても、登山者密度が高まる時間帯・場所は見られない。		◆午前中と20時前後に登山を開始する人が多い。御来光前後に山頂に滞在している人が多い。 ◆五合目から山頂までの場所においても、登山者密度が高まる時間帯・場所は見られない。		◆午前6時から9時の間に登山を開始する人が多い。山頂には御来光前後に滞在する登山者が多く、日中にも小さなピークが見られる。 ◆五合目から山頂までの場所においても、登山者密度が高まる時間帯・場所は見られない。	

所要時間の結果は、GPSロガー保持者の中央値を採用。

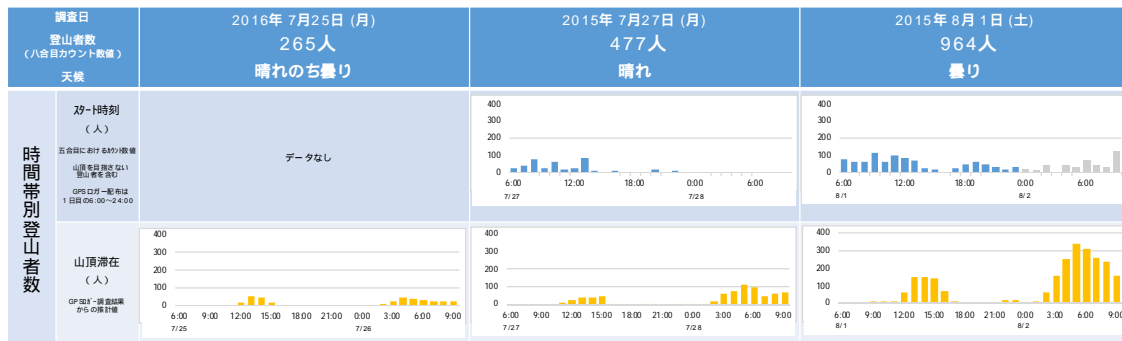
1

調査結果概要 (登山者の登山動向:須走口)

夏山全期間の状況



2015年～2016年で調査した10日間のうち、 の(中央値)・(第3四分位)・(最大値)に近い日



中央値とは、データを小さい順から並べた時に中央に位置するものの値。第3四分位数とは、同様に並べた時に4分の3番目に位置するものの値。

1

調査日	2016年7月25日(月)	2015年7月27日(月)	2015年8月1日(土)
登山者数 (八合目カウント数値)	265人 (同日の吉田口 1,779人)	477人 (同日の吉田口 1,910人)	964人 (同日の吉田口 3,337人)
御来光時刻	4:37	4:38	4:42
五合目～山頂(高層・明け方)			
本八合目～山頂(明け方)			
登山者密度			
現場写真(明け方)			
	04:00 区間54 2015年8月19日(水) 前日登山者 237人 (吉田口 1,700人)	04:24 区間55 2015年8月19日(水) 前日登山者 237人 (吉田口 1,700人)	04:00 区間54 2015年8月15日(土) 前日登山者 572人 (吉田口 3,485人)

当日の現場写真がない日は、登山者数の近い別の日の写真を用いている。

密度 1-2人/m 2-3人/m 3人/m以上

1

調査日	2016年7月25日(月)	2015年7月27日(月)	2015年8月1日(土)
登山者数 (八合目カウント数値)	265人 (同日の吉田口 1,779人)	477人 (同日の吉田口 1,910人)	964人 (同日の吉田口 3,337人)
所要時間	御来光館上～山頂直下[500m] (区間50～54) 11時～15時 2時37分～3時37分 (御来光時の2～1時間前) 3時37分～4時37分 (御来光時の1時間前～御来光時)	44分 70分 69分	11時～15時 2時38分～3時38分 (御来光時の2～1時間前) 3時38分～4時38分 (御来光時の1時間前～御来光時)
登山者意識	登山道の多さが許容できない/あまり許容できない 1.9% 混雑・危険回答割合 山頂の人の多さが許容できない/あまり許容できない 7.8% 無理な追い越しによる危険があった 5.8% 今回の富士登山にとても満足 58.8% トイレの数や設備にとても不満/やや不満 9.8% 山小屋のサービス・雰囲気にとっても不満/やや不満 10.5% 登山を通じて富士山に「神聖さ」を感じた/少し感じた 90.4%	登山道の多さが許容できない/あまり許容できない 11.6% 山頂の人の多さが許容できない/あまり許容できない 15.8% 無理な追い越しによる危険があった 13.1% 今回の富士登山にとても満足 58.3% トイレの数や設備にとても不満/やや不満 15年調査なし 山小屋のサービス・雰囲気にとっても不満/やや不満 15年調査なし 登山を通じて富士山に「神聖さ」を感じた/少し感じた 83.8%	登山道の多さが許容できない/あまり許容できない 21.4% 山頂の人の多さが許容できない/あまり許容できない 32.6% 無理な追い越しによる危険があった 26.3% 今回の富士登山にとても満足 56.6% トイレの数や設備にとても不満/やや不満 15年調査なし 山小屋のサービス・雰囲気にとっても不満/やや不満 15年調査なし 登山を通じて富士山に「神聖さ」を感じた/少し感じた 83.5%
登山者アンケート	巡礼後に登山する文化的伝統を知っていた/今回の登山・訪問で知った 41.7% 登山中にゴミをよく見かけた 32.7% 山小屋に宿泊した 46.2% 山頂で御来光を見た 19.2%	巡礼後に登山する文化的伝統を知っていた/今回の登山・訪問で知った 29.3% 登山中にゴミをよく見かけた 15年調査なし 山小屋に宿泊した 56.1% 山頂で御来光を見た 40.6%	巡礼後に登山する文化的伝統を知っていた/今回の登山・訪問で知った 34.2% 登山中にゴミをよく見かけた 15年調査なし 山小屋に宿泊した 43.4% 山頂で御来光を見た 37.5%
解説	◆ 昼前後及び御来光前後に山頂に滞在する人が多いが、いずれも大きなピークではない。 ◆ 九合目から山頂にかけて、登山者の集中が散見されるが、集中箇所が連なることはない。	◆ 午前中から13時までには登山を開始する人が多い。山頂滞りは御来光前後に大きなピークがあるが、お昼から15時にも小さなピークがある。 ◆ 九合目から山頂にかけて、登山者の集中が散見されるが、集中箇所が連なることはなく、登山者数265人の調査日と状況は変わらない。	◆ 午前中から13時までと20時前後に登山を開始する人が多い。山頂滞りは御来光前後に大きなピークがあるが、昼前後にも小さなピークがある。 ◆ 本八合目から山頂にかけて集中箇所が連なる状況が発生している。

所要時間の結果は、GPSロガー一保持者の中央値を採用。

1

3章 上方の来訪者管理の方向性

本章においては、2章に示した調査研究結果から、「望ましい富士登山の在り方」の3つの視点ごとに現状・課題を整理した上で、それぞれ対応の方向性を明示することとする。

1. 17世紀以来の登拝に起源する登山の文化的伝統の継承

(1) 現状・課題

登山者へのアンケート調査では、富士山に信仰登山としての「神聖さ」を感じたまたは少し感じたと回答した登山者が9割前後にのぼる一方、富士山に登る前に山麓の神社や湖・滝などにお参りして身を清めるという文化伝統を知らなかったとする回答が6割前後を占めている（p 参照）。

このような傾向は、いずれの登山道でも同様であり、富士山の文化的伝統や構成資産などに関する基本情報を登山前に触れられるよう工夫するとともに、登山に合わせて山梨県・静岡県富士山世界遺産センターや構成資産を巡るよう誘導することなどが必要である。

(2) 対応の方向性

吉田口登山道における山麓からの登山や山小屋で休憩してから山頂付近で御来光を拝む富士山の文化的伝統について、伝統的な登山形態や顕著な普遍的価値に関する登山者の理解の向上を図る。

2. 登山道及び山頂付近の良好な展望景観の維持

(1) 現状・課題

登山者へのアンケート結果では、いずれの登山道でも、回答者の概ね9割程度が、登山者のための施設の景観が自然と調和していたまたはやや調和していたと回答し、人工構造物を含めた富士山の景観を肯定的に捉えている（p 参照）。

ただし、外国人登山者の増加など、登山者層の多様化につれ、このような意識が変化していく可能性もあることから、日常的なパトロールや施工時の景観配慮を一層進めていく必要がある。

(2) 対応の方向性

人工構造物や植生等の変化による景観への負の影響を未然に防止するとともに、負の影響が発現した場合には可及的速やかに原因の除去等を行う。

3. 登山の安全性・快適性の確保

(1) 現状・課題

夏山期間中の登山者数は、富士山が世界文化遺産に登録された 2013 年（平成 25 年）以前は 30 万人前後で推移していたが、2014 年（平成 26 年）以降は減少に転じ、21 万人から 25 万人前後で推移している。（7 月～8 月の登山者数）

また、五合目以上の登山道で発生する著しい混雑は、夏山期間を通じて恒常的に発生している訳ではなく、特定の日・時間帯・箇所によりのみ発生していることが判明した。

さらに、登山者数に比例して、「混雑への許容度」や「危険を感じた割合」等が増加することが判明した。

これらの状況を踏まえ、著しい混雑（登山者の過度な集中（偏在））を早急に解消し、登山の安全性の向上や登山者の意識（快適性）を改善していく必要がある。

（2）対応の方向性

収容力（登山者数）と関連する視点として、過剰な登山者数による著しい混雑の緩和を図るとともに、訪れるすべての登山者が富士登山を堪能できるよう、安全性・快適性のさらなる向上を目指す。

直面する課題においては、「著しい混雑の解消」が急務であることから、特に重点的に取り組みを進めることとする。

表 2 「望ましい富士登山の在り方」の実現に向けた対応の方向性（まとめ）

望ましい富士登山の在り方		対応の方向性
視 点	区 分	
17 世紀以来の登拝に起源する登山の文化的伝統の継承	<ul style="list-style-type: none"> ・頂上付近で御来光を拝む場合には、途中の山小屋で宿泊・休憩していること ・特定された山麓の巡礼路・登山道からの登山が行われていること ・山麓の神社・霊地等と登山道とのつながりが認知・理解されていること 	伝統的な登山形態や顕著な普遍的価値に関する登山者の理解の向上を図る。
登山道及び山頂付近の良好な展望景観の維持	<ul style="list-style-type: none"> ・山小屋・防災関連の施設等の登山者のための施設が自然と調和していること ・浸食・植生等の変化による展望景観への影響が抑制されていること 	人工構造物や植生等の変化による景観への負の影響を未然に防止するとともに、原因の除去等を行う。
登山の安全性・快適性の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・登山装備・登山マナー等が理解されていること ・過剰な登山者数による混雑・危険・不満を感じない登山ができること 	特に収容力（登山者数）と関連する視点として、過剰な登山者数による著しい混雑の緩和を図るとともに、訪れるすべての登山者が富士登山を堪能できるよう、安全性・快適性のさらなる向上を目指す。＜重点的な取組＞

4章 指標・水準の設定

来訪者管理戦略では、3年間の調査研究結果に基づき、登山道ごとの1日当たりの登山者数を含めた複数の指標と指標ごとに水準を設定することとしている。

本章においては、2章及び3章の記述を踏まえ、指標・水準の選定方針、登山者数に関する指標の考え方等について示す。なお、指標・水準の設定にあたっての検討体制及び経過は、参考資料 のとおりである。

1. 指標・水準の選定

指標・水準は、以下の基本的な方針に基づき設定した。

指標

- ・「望ましい富士登山の在り方」の実現につながり、変化を容易に確認できること。
- ・モニタリングに際し、特別な機材や技術、過度な経費を必要としないこと。
- ・「望ましい富士登山の在り方」の3つの視点の区分ごとに1つ以上選定する。

水準

- ・2019年(平成31年)を短期目標として、現状値から改善が図れること。(定量的な指標は概ね10%程度の改善を目安とする。)
- ・定量的な指標は出来る限り数値化し、定性的な指標は、無理に数値化しない。

表3 「望ましい富士登山の在り方」の実現に向けた指標

望ましい富士登山の在り方		指標	登山口	現状			水準 (H31の 目標値)	モニタリング 方法
視点	区分			H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)		
十七世紀以来の登拝に起源する登山の文化的伝統の継承	頂上付近で御来光を拝む場合には、途中の山小屋で宿泊・休憩していること	伝統的な登拝の登山形態と同様に、山小屋で休憩してから山頂で御来光を拝む登山者の割合	全体	70.4%	68.2%	%	80%以上	登山者アンケート [分母は山頂で御来光を拝んだ(見た)登山者数]
	特定された山麓の巡礼路・登山道からの登山が行われていること	古くからの巡礼路としてルートが特定されている吉田口登山道における山麓からの登山者の割合	吉田	11.9%	13.7%	12.4%	15%以上	吉田口五合目登山者数カウント [分母は吉田口八合目登山者数カウント]
	山麓の神社・霊地等と登山道とのつながりが認知・理解されていること	山麓の神社や湖などを巡ったのちに富士登山をする文化的伝統を知っている登山者の割合	全体	32.9%	39.0%	%	50%以上	登山者アンケート [以前から知っていた/今回の登山・訪問で知った人の割合]
		富士山に「神聖さ」を感じた登山者の割合	全体	83.0%	88.3%	%	90%以上	登山者アンケート [感じた/少し感じた人の割合]
登山道及び山頂付近の良好な展望景観の維持	山小屋・防災関連の施設等の登山者のための施設が自然と調和していること	自然と調和しない人工構造物による登山道沿いの景観阻害	全体	-	-		非調和的要素が予見又は発見されない	文化財パトロール・レンジャーによる視認 文化財保護法・自然公園法の現状変更申請
	浸食・植生等の変化による展望景観への影響が抑制されていること	五合目以上における登山道の浸食や植生等の変化による展望景観の変化	全体	-	-		負の影響が予見又は確認されない	各登山口五合目から山体を観察

望ましい富士登山の在り方		指標	登山口	現状			水準 (H31の 目標 値)	モニタリング 方法
視点	区分			H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)		
登山の安全性・快適性の確保	登山装備・登山マナー等が理解されていること	登山道や山頂付近でゴミをよく見かけた登山者の割合	全体	-	26.8%	%	15%以下	登山者アンケート
		人的要因による文化財き損届の件数	全体	1件	0件	件	0件	特別名勝・史跡富士山に係る文化財き損届(五合目以上)
	過剰な登山者数による混雑・危険・不満を感じない登山ができること	下山道間違いの対応人数	須走	981人	944人	人	対H27比 2割減	富士山ナビゲーター対応記録 [吉田口から登山し、須走口に下山した人]
		山小屋やトイレなどの登山者への支援施設に不満を感じた登山者の割合	全体	-	19.1%	%	15%以下	登山者アンケート [とても不満/やや不満の割合] (現状値はトイレへの不満の最大値)
		夏山期間を通じて著しい混雑が発生する登山者数/日* 1を超えた日数	吉田*2	4日	4日	5日	対前年減	八合目登山者数カウンター 登山者アンケート [混雑の許容度危険を感じた割合等]
			富士宮*2	3日	2日	4日	対前年減	
	*1 吉田口: 3,500 ~ 4,500人/日 富士宮口: 1,500 ~ 2,500人/日		御殿場	-	-	-	-	
			須走	-	-	-	-	

*2 現状値は、吉田口が4,000人/日、富士宮口が2,000人/日を超えた日数。

このうち、登山者数に関する指標・水準(「夏山期間を通じて著しい混雑が発生する登山者数を超えた日数」)については、3年間の調査結果を踏まえた登山者数別の推計等に基づき設定しており、その内容を次節で詳述する。

2. 登山者数に関する指標・水準の設定について

来訪者管理戦略では、複数ある指標の1つとして、「登山道ごとの1日当たりの登山者数」を設定することを示していることから、近年の登山者数の傾向や登山道における混雑の発生状況等を多角的に分析するとともに、地元関係者や登山者の理解・協力が得られるよう検討を進め、登山者数に関する指標・水準の設定を行った。

(1) 登山者数の推移・傾向

夏季における登山者数は、2010年(平成22年)をピークに、世界文化遺産として登録された2013年(平成25年)まで、約30万人で推移していたが、2014年(平成26年)には、登山に適した天候が少なかったことなどの影響により、登山者数が減少に転じ、2015年(平成27年)には約20万人に減少した。2017年(平成29年)は、約25万人に回復している。(7月～8月の登山者数)

また、1日当たりの最大登山者数については、2014年(平成26年)以降、大きく変動していない。

- ・ 全体の登山者数は、ピーク時に比べ約2割減少。(320,975人 248,411人)
- ・ 1日当たりの最大登山者数は、ピーク時(2010年(平成22年))に比べ約3割減少。(12,538人 8,201人)
- ・ 特に須走口の1日当たりの最大登山者数は、ピーク時(2009年(平成21年))に比べ約3分の1に減少している。(2,734人 791人)

表4 夏山期間中の1日最大登山者数の推移(環境省設置赤外線カウンター)

	2009 (H21)	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
全体	11,358	12,538	9,961	11,779	10,040	8,803	7,687	7,762	8,201
吉田	6,197	6,692	5,175	6,831	5,559	4,610	4,265	4,585	4,544
富士宮	2,880	3,501	2,672	3,185	2,899	2,426	2,249	2,107	2,656
御殿場	596	627	961	1,101	817	766	793	557	1,020
須走	2,734	2,441	1,675	1,639	1,384	1,193	964	950	791

太字はこれまでの最大値。

(2) 登山道における混雑の発生状況

GPSロガーによる登山者動態調査の結果から、登山道における混雑の発生は、極めて限定的なものであることが判明した。

- ・ 特定の日・時間帯・箇所に登山者が集中し、著しい混雑が発生する。
- ・ 宿泊を伴わない夜間登山者(弾丸登山者)が、著しい混雑を発生させる一つの要因となっている。

(3) シミュレーションの実施

2016年(平成28年)には、登山道ごとの1日当たりの登山者数と登山者意識及びGPSロガー調査による混雑状況等の関係性を整理し、登山道ごとに特定区間の密度、所要時間、登山を通じた登山者意識などのシミュレーションを実施した。

シミュレーションは、吉田口7パターン(2,000、2,500、3,000、3,500、4,000、4,500、5,000人)、富士宮口3パターン(1,200、1,600、2,000人)、御殿場口3パターン(400、600、800人)、須走口3パターン(800、1,000人、1,200人)を実施した。

いずれのパターンにおいても、登山者数の増加に比例して登山者密度の高まりや所要時間の増加が見られるなど、調査結果と同様の傾向を示すものとなった。

	2,000人時に想定される状況	2,500人時に想定される状況	3,000人時に想定される状況	3,500人時に想定される状況
登山者数				
所要時間	御来光館上～山頂直下[500m](区間50～54) 日中(11時～15時) 44分 御来光時2～1時間前 71分 御来光時1時間前～御来光時 72分	御来光館上～山頂直下[500m](区間50～54) 日中(11時～15時) 45分 御来光時2～1時間前 78分 御来光時1時間前～御来光時 76分	御来光館上～山頂直下[500m](区間50～54) 日中(11時～15時) 46分 御来光時2～1時間前 85分 御来光時1時間前～御来光時 81分	御来光館上～山頂直下[500m](区間50～54) 日中(11時～15時) 47分 御来光時2～1時間前 92分 御来光時1時間前～御来光時 86分
登山者意識	登山道の人の多さが許容できない/あまり許容できない 15.5% 山頂の人の多さが許容できない/あまり許容できない 15.7% 無理な追い越しによる危険があった 11.1%	登山道の人の多さが許容できない/あまり許容できない 21.8% 山頂の人の多さが許容できない/あまり許容できない 20.6% 無理な追い越しによる危険があった 14.1%	登山道の人の多さが許容できない/あまり許容できない 28.1% 山頂の人の多さが許容できない/あまり許容できない 25.6% 無理な追い越しによる危険があった 17.1%	登山道の人の多さが許容できない/あまり許容できない 34.3% 山頂の人の多さが許容できない/あまり許容できない 30.5% 無理な追い越しによる危険があった 20.1%
留意事項	◆ 御来光の前1時間に山頂直下に登山者が集中するが、場所と時間は限定的で、他の時間及び九合目以下で集中は見られない。	(2,000人ケースと3,000人ケースの間)	◆ 御来光2時間前から山頂直下に登山者が集中している。御来光時に山頂に到達する登山者により本八合目から山頂は混雑が継続する。	(3,000人ケースと4,000人ケースの間)



1

	4,000人時に想定される状況	4,500人時に想定される状況	5,000人時に想定される状況
登山者数			
所要時間	御来光館上～山頂直下[500m](区間50～54) 日中(11時～15時) 48分 御来光時2～1時間前 99分 御来光時1時間前～御来光時 91分	御来光館上～山頂直下[500m](区間50～54) 日中(11時～15時) 49分 御来光時2～1時間前 106分 御来光時1時間前～御来光時 96分	御来光館上～山頂直下[500m](区間50～54) 日中(11時～15時) 50分 御来光時2～1時間前 113分 御来光時1時間前～御来光時 101分
登山者意識	登山道の人の多さが許容できない/あまり許容できない 40.6% 山頂の人の多さが許容できない/あまり許容できない 35.5% 無理な追い越しによる危険があった 23.1%	登山道の人の多さが許容できない/あまり許容できない 46.9% 山頂の人の多さが許容できない/あまり許容できない 40.5% 無理な追い越しによる危険があった 26.2%	登山道の人の多さが許容できない/あまり許容できない 53.1% 山頂の人の多さが許容できない/あまり許容できない 45.4% 無理な追い越しによる危険があった 29.2%
留意事項	◆ 山頂直下は御来光2時間前から混雑し、本八合目以上も御来光2時間以上前から御来光時に山頂に到達する登山者による混雑が継続(移動)する。	(4,000人ケースと5,000人ケースの間)	◆ 山頂直下は御来光2時間前から混雑し、本八合目以上も御来光の1時間以上前に山頂に到達しなければ、常に混雑に巻き込まれる状況となる。



1

図3 吉田口登山道シミュレーション

		1,200人時に想定される状況								1,600人時に想定される状況								2,000人時に想定される状況									
登山者密度	山頂	[Grid]								[Grid]								[Grid]									
	九合目 (万年雪山)	[Grid]								[Grid]								[Grid]									
	九合目 (万年雪山)	[Grid]								[Grid]								[Grid]									
	九合目 (万年雪山)	[Grid]								[Grid]								[Grid]									
所要時間	万年雪山山荘上～山頂直下 [600m] (区間34～39)																										
	日中(11時～15時)								63分	日中(11時～15時)								66分	日中(11時～15時)								69分
	御来光時2～1時間前								74分	御来光時2～1時間前								80分	御来光時2～1時間前								86分
	御来光時1時間前～御来光時								84分	御来光時1時間前～御来光時								88分	御来光時1時間前～御来光時								92分
登山者意識	登山道の人の多さが許容できない/あまり許容できない								15.1%	登山道の人の多さが許容できない/あまり許容できない								23.1%	登山道の人の多さが許容できない/あまり許容できない								31.1%
	山頂の人の多さが許容できない/あまり許容できない								14.3%	山頂の人の多さが許容できない/あまり許容できない								21.0%	山頂の人の多さが許容できない/あまり許容できない								27.8%
	無理な道い越しによる危険があった								11.9%	無理な道い越しによる危険があった								20.9%	無理な道い越しによる危険があった								29.9%
	トイレの数や設備にとっても不満/やや不満								13.0%	トイレの数や設備にとっても不満/やや不満								15.8%	トイレの数や設備にとっても不満/やや不満								18.7%
解説	◆ 御来光の前30分と後1時間に山頂直下で登山者が集中する。																										
	◆ 御来光の前1時間と後1時間に山頂直下で登山者が集中する。																										

登山者密度は登山者数との高い関連性があるものを記載。 密度 1-2人/m 2-3人/m 3人/m以上

図4 富士宮口登山道シミュレーション

		400人時に想定される状況								600人時に想定される状況								800人時に想定される状況									
登山者密度	山頂	[Grid]								[Grid]								[Grid]									
	八合目	[Grid]								[Grid]								[Grid]									
	八合目	[Grid]								[Grid]								[Grid]									
	八合目	[Grid]								[Grid]								[Grid]									
所要時間	八合目上～山頂直下 [800m] (区間84～91)																										
	日中(11時～15時)								54分	日中(11時～15時)								51分	日中(11時～15時)								48分
	御来光時2～1時間前								74分	御来光時2～1時間前								67分	御来光時2～1時間前								60分
	御来光時1時間前～御来光時								65分	御来光時1時間前～御来光時								59分	御来光時1時間前～御来光時								53分
登山者意識	登山者数と高い関連性が見られない																										
	登山者数と高い関連性が見られない																										
解説	◆ 八合目上から山頂において、御来光の前後における登山者の混雑は発生しない。																										
	◆ 八合目上から山頂において、御来光の前後における登山者の混雑は発生しない。																										
◆ 八合目上から山頂において、御来光の前後における登山者の混雑はほとんど発生しない。御来光時に山頂直下で若干登山者密度が高まるが、その時間・場所はごく限定的である。																											

密度 1-2人/m 2-3人/m 3人/m以上

図5 御殿場口登山道シミュレーション

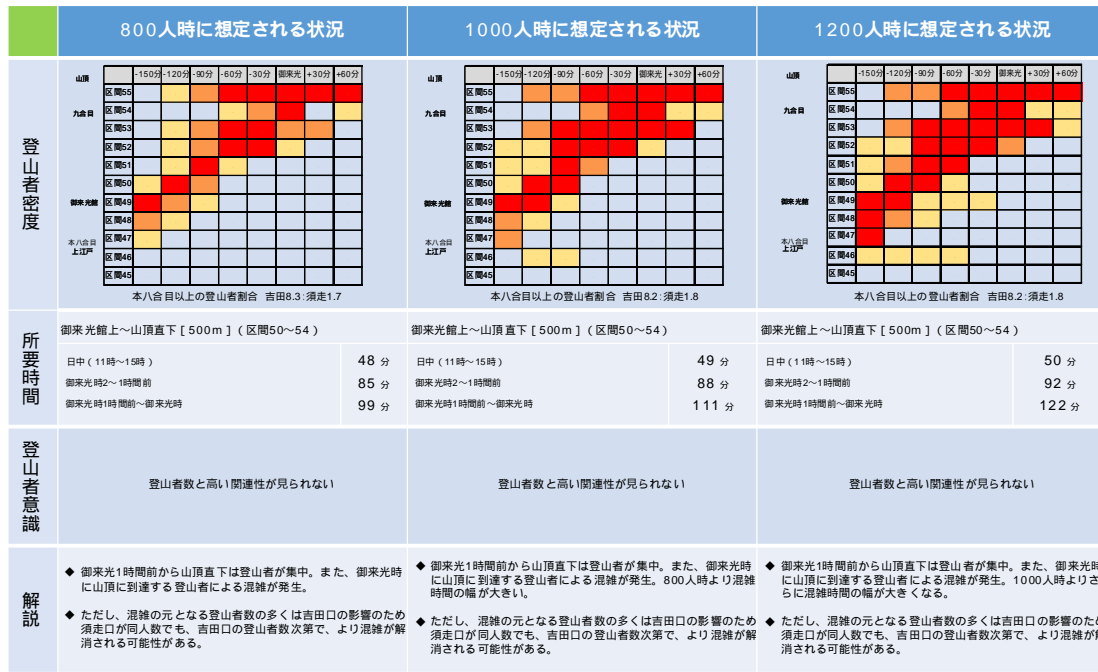


図6 須走口登山道シミュレーション

(4) 登山者数に関する指標の設定

来訪者管理戦略では、「登山道ごとの1日当たりの登山者数」を含めた複数の指標を設定することを示している。

一方、著しい混雑は、日・時間帯・箇所が限られ、恒常的に発生していないことから、単に「1日当たり登山者数」と表記しても、限定的に発生する混雑の緩和に直結しない上、登山者数を超えた段階で直ちに入山規制が始まるものと誤解される恐れがある。

したがって、「特定の日・時間帯・箇所における著しい混雑の緩和」を目指すメッセージが明確に伝わるよう、以下のとおり登山者数に関する指標を定めることとした。

【指標】
夏山期間を通じて著しい混雑が発生する登山者数/日を超えた日数

(5) 登山者数に関する目標水準等の設定

登山者数に関する指標の水準は、特定の日・時間・箇所の混雑が緩和されることを目指す観点から、著しい混雑が発生する登山者数を超過する日を前年よりも減らすことを目標とする。

なお、著しい混雑が発生する登山者数については、登山者動態調査等の研究結果に基づき、登山者数と登山道の渋滞等との関係性から導出することとしたため、「著しい混雑」について、定量的に定義した。

(6) 登山者密度の定義

「著しい混雑」を定義するために、富士山における混雑基準について、登山者密度から定義した。

◆ 富士山における混雑基準

- 登山時において、前後左右の人と接触しないために必要な距離を次のとおり設定する。
 - ・前後の間隔 80cm (腕や足を繰り出す際に必要な前者との空間 [30cm] + 人の厚み [20cm] + ザックの厚み [30cm])
 - ・左右の間隔 100cm (人の幅 [80cm] + ストック (トレッキングポール) や金剛杖の振れ幅 [左右各 10cm])
- したがって、一人当たり必要面積は最低 0.8 m²/人となる。
- これを密度 (1 m²当たり登山者数) に換算すると、1.25 人/m²となり、密度がこれ以上になると混雑すると定義する。

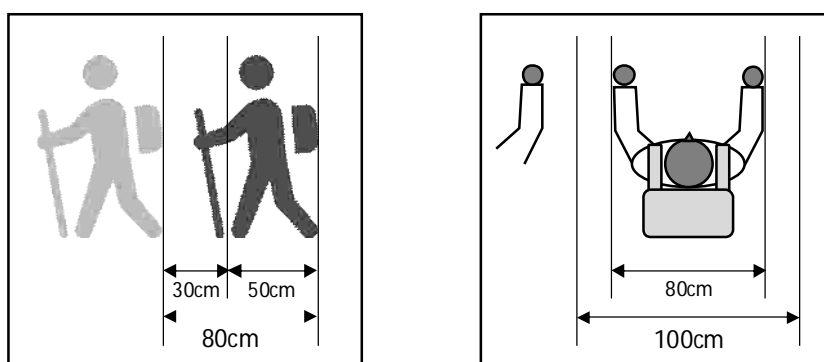


図7 イメージ図

表5 登山者密度の比較

登山者密度の色	白	黄	橙	赤
基準 (人/m ²) (登山者の間隔)	~0.67 人/m ² (間隔 100cm 以上)	0.67~1.00 人/m ² (間隔 100-50cm)	1.00~1.25 人/m ² (間隔 50-30cm)	1.25 人/m ² ~ (間隔 30cm 以下)
登山者の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・前の登山者を気にせず自分のペースで歩行が可能。 ・手を広げても周囲の登山者とぶつかることはない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前後に登山者はいるが、連続歩行が可能。 ・手を広げるとストック等が周囲の登山者にぶつかる危険がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・時々立ち止まる必要がある。 ・前の登山者に注意していないと、急に立ち止まった際にぶつかる危険がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・止まりながら徐々に進む。 ・ストックやザックがよくぶつかり合う。 ・前方の登山者が転倒した場合、巻き込まれる危険性がある。



(7)「著しい混雑」の定義

登山道ごとに混雑状況を示すために、8合5勺(富士宮口は9合目)から山頂までの間で調査区間を設定した。

調査区間は、休憩により人が溜まりやすいカーブ区間を除外し、直線区間を10m~20mの範囲で区切り設定した。

「著しい混雑」は、設定した調査区間において、前項で定めた混雑(登山者密度1.25人/m²以上)の発生状況を分析し、登山者密度1.25人/m²以上になる状態が、同時に複数の箇所が発生し、かつ、同一区間で1時間以上継続する又は2区間以上連続して、混雑が発生する状況を「著しい混雑」と定義した。

したがって、単に混雑が発生する状況は「著しい混雑」に該当しないこととした。

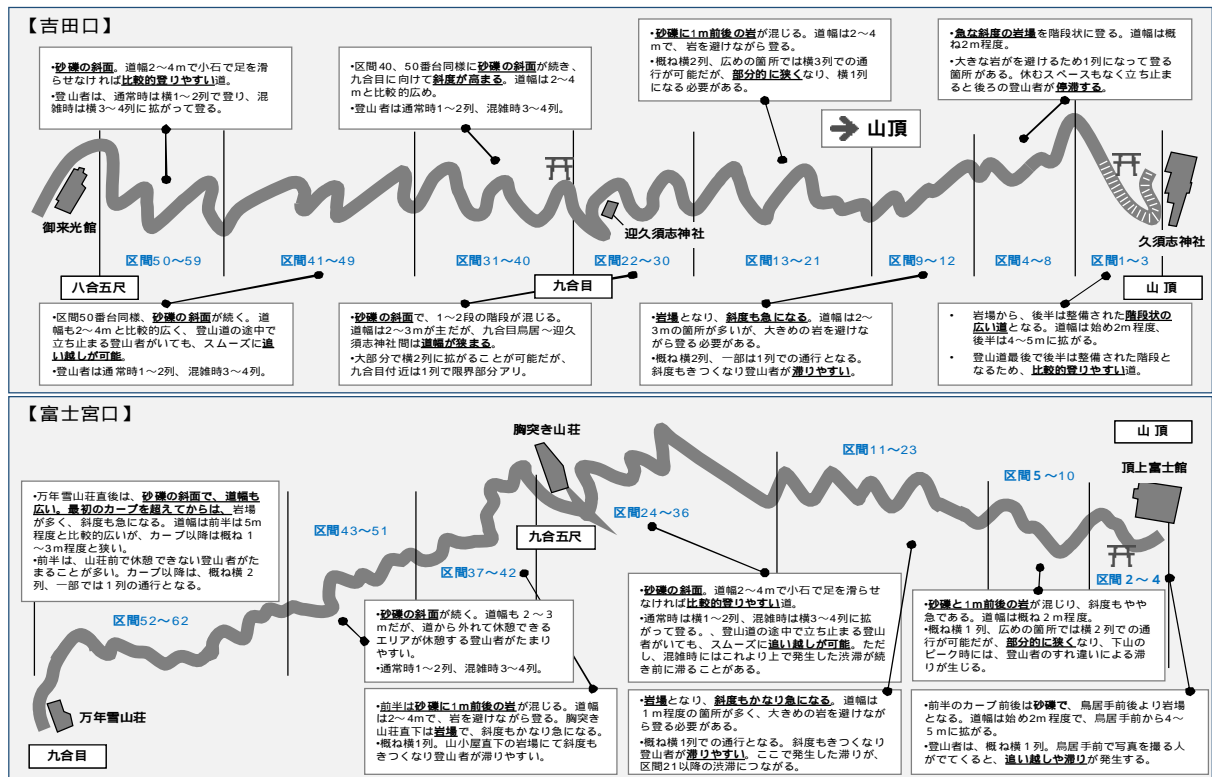


図8 調査区間の特徴

(8) 著しい混雑が発生する登山者数

前項に定めた「著しい混雑」の定義を踏まえ、登山者数別の登山者密度、登山者意識等の推計を示し、関係者間での合意により、登山者数を定めた。

登山者数別の推計						
【吉田口】						
登山者数 (前日八合目通過者)	3,000人 [人/m]	3,500人 [人/m]	4,000人 [人/m]	4,500人 [人/m]		
登山者密度	山頂直下					
	九合目 (迎々須志神社)					
	八合五勺 (御来光館)					
御来光館～山頂直下の所要時間	日中出発 午前2時出発	57分 92分	日中出発 午前2時出発	58分 97分	日中出発 午前2時出発	60分 105分
登山者意識	登山道の人の多さが許容できない (登山道の人の多さが許容できる)	7.3% (39.4%)	登山道の人の多さが許容できない (登山道の人の多さが許容できる)	9.4% (32.7%)	登山道の人の多さが許容できない (登山道の人の多さが許容できる)	11.5% (26.1%)
	山頂の人の多さが許容できない (山頂の人の多さが許容できる)	7.6% (33.8%)	山頂の人の多さが許容できない (山頂の人の多さが許容できる)	9.3% (33.2%)	山頂の人の多さが許容できない (山頂の人の多さが許容できる)	10.9% (27.5%)
	無理な追い越しによる危険があった	17.1%	無理な追い越しによる危険があった	20.1%	無理な追い越しによる危険があった	23.1%
登山者の様子						
解説	<ul style="list-style-type: none"> 御来光直前に区間7で密度赤が発生するが、30分以上継続することはない。 散発的に密度橙や密度黄の発生が見られる。 御来光直前に区間7で密度赤が発生するが、30分以上継続することはない。 3000人時と比較すると密度橙及び密度黄の拡大が見られる。 区間7でも密度赤の状況が1時間以上継続し、それより下では連続する区間で密度赤の発生が見られる。 九合目より下にも密度黄の区間が広がる。 密度赤の状況が同時に複数箇所で発生し、1時間以上継続する箇所や同時に2区間に亘って連続する箇所が見られる。 九合目以下でも密度赤が発生するほか、4000人時と比較して、密度橙の区間が増える。 					

図9 吉田口登山道における登山者数別の推計

登山者数別の推計						
【富士宮口】						
登山者数 (前日8合目通過者)	1,000人 [人/m]	1,500人 [人/m]	2,000人 [人/m]	2,500人 [人/m]		
登山者密度	山頂直下					
	九合五勺 (胸突山荘)					
	九合目 (万年鶴山荘)					
胸突山荘～山頂直下の所要時間	日中出発 午前3時出発	34分 47分	日中出発 午前3時出発	33分 52分	日中出発 午前3時出発	32分 62分
登山者意識	登山道の人の多さが許容できない (登山道の人の多さが許容できる)	2.8% (61.9%)	登山道の人の多さが許容できない (登山道の人の多さが許容できる)	6.6% (44.8%)	登山道の人の多さが許容できない (登山道の人の多さが許容できる)	10.4% (27.7%)
	山頂の人の多さが許容できない (山頂の人の多さが許容できる)	2.6% (61.5%)	山頂の人の多さが許容できない (山頂の人の多さが許容できる)	4.2% (44.6%)	山頂の人の多さが許容できない (山頂の人の多さが許容できる)	5.8% (27.7%)
	無理な追い越しによる危険があった	7.4%	無理な追い越しによる危険があった	18.6%	無理な追い越しによる危険があった	29.9%
登山者の様子						
解説	<ul style="list-style-type: none"> 御来光後に山頂直下で比較的低密度が高くなるが、密度赤が発生することはない。 御来光後に山頂直下で密度赤の状況が1時間程度発生するが、他の区間で密度赤が発生することはない。 御来光後の山頂直下の混雑(赤密度)の継続時間が長くなる。また、下の箇所でも登山時および下山時に赤密度が発生、44周辺では同時間帯で2区間に渡っている。 御来光後に山頂直下で長時間に亘り密度赤の状況が発生し、7時30分頃まで解消しない。また、複数の区間において密度赤の状況が見られるとともに、1時間以上継続する箇所や2区間に亘って連続する箇所も見られる。 					

図10 富士宮口登山道における登山者数別の推計

- 「著しい混雑が発生する登山者数/日」については、吉田口 3,500 人～4,500 人程度、富士宮口 1,500 人～2,500 人程度を想定し、さらに調査結果の分析等を加え、最終的には1つの登山者数を定めることとする。
- 御殿場口は、現状では目立った混雑が発生しないため、指標・水準は設定しない。須走口は、吉田口と合流するまで（本八合目より下）は、目立った混雑が発生せず、吉田口に比べて登山者が少ないことから、指標・水準は設定しない。

(9) 収容力（登山者数）の検証

ア 収容力（登山者数）の概念

ユネスコ世界遺産センター発行（2002年）の「世界遺産における来訪者管理～世界遺産管理マニュアル」では、収容力について以下の3つの概念に分類している。このうち、富士山の上方の登山道においては、物理的収容力及び生態的収容力で規定することが困難であるため、主に社会的収容力の観点から収容力を導出した。

表6 収容力の概念と富士山への適用

収容力の概念	富士山への適用可能性
<p>物理的収容力</p> <p>利用可能なスペースとの関係で捉えられ、宿泊客に提供可能なベッド数、駐車場が満杯となる車の数、キャンプ地におけるキャンプ客数、劇場での座席数等のこと。</p>	<p>五合目以上の登山道において、登山者が利用可能なエリアは、登山道（山小屋周辺を含む）と山頂部であるが、広大な面積を有しているため、物理的に入りきる人数を収容力とすることは現実的に考えられない。</p> <p>また、施設の処理能力は、整備状況により増減可能となるだけでなく、その基準まで登山者数の受け入れを容認することになるため、富士山の収容力として、妥当でないと考える。</p>
<p>生態的収容力</p> <p>生態系が持続可能な機能を維持しつつ、どの程度の人為的干渉に耐えることができるかということ。</p>	<p>五合目以上の登山道は、厳しい自然環境（風雨・融雪）による浸食が発生する箇所が見られる一方、堅牢な溶岩で形成されている箇所では登山行為による影響を受けにくく、また、標高が高くなるにつれて、動植物がほとんど見られないなど、土壌の浸食及び生物個体数等から収容力を導出することは困難である。</p>
<p>社会的収容力</p> <p>心理的、社会文化的なもの</p>	<p>登山者意識調査・動態調査等の研究結果に基づき、登山者数と登山道の渋滞、登山者の満足</p>

であり、ある利用スペースにおいて、何人以上になるとレクリエーション体験の質や利用者の満足度が落ちるといった限界値のこと。	度・混雑への許容度等との関係性から導出する。
--	------------------------

イ 収容力の検証

社会的収容力から導出し設定した収容力（登山者数）について、物理的収容力及び生態的収容力の観点からも、富士山に対する負の影響を与えるものではないことを検証し、確認した。

(ア)物理的収容力

登山者を支援する施設（駐車場・宿泊施設）の処理能力は、以下に示すとおりであるが、設定した収容力（登山者数）は、それらを超過したものとはならず、施設の処理能力の観点からも問題ないものと考えられる。

表7 駐車場台数、宿泊者数

	吉田	須走	御殿場	富士宮	山頂
駐車場台数 (県HP、ワイパル付より)	・330台(五合目) ・500台(路傍) ・1400台(北麓)	・200台(五合目) ・500台 (須走多目的広場)	・500台(五合目)	・350台(五合目) ・1000台(水ヶ塚) ・400台(西白塚)	-
山小屋最大宿泊者数 (環境省告示より)	2500人	700人	300人	1000人	400人

登山者数に占める山小屋宿泊者の割合（登山者アンケート調査より）

吉田口：約7割、須走口：約4割、御殿場口：約4割、富士宮口：約5割

夏山期間中に、山麓の駐車場が満車となることはない。

トイレは過去の調査において、登山者数に比例して待ち人数・時間が増加する傾向になかった。

(イ)生態的収容力



設定した収容力（登山者数）の範囲内であれば、生態系への負の影響を予見することはできない。

しかし、登山者数が減少傾向にあるとは言え、増加に転じる可能性も否定できないことから、負の影響を観察するために、指標の1つとして景観変化の観察等の必要な項目を盛り込み、モニタリングを実施していくこととする。



5章 対策の実施



本章においては、山梨県・静岡県及び関係市町村が、現に実施中の対策も含め、4章に記述した指標ごとに定めた水準の達成を目的として実施する対策を示す。

山麓の構成資産の理解の促進、訪問の誘導	文化的伝統の継承	展望景観の維持	安全性・快適性の確保
<ul style="list-style-type: none"> ・「富士山世界遺産センター」を中心に、構成資産間の関係性・つながりや資産全体が持つ顕著な普遍的価値に関する情報提供を積極的に行い、来訪者の認知・理解を促進する。 ・富士山麓の魅力を味わい体験してもらうために、山麓の構成資産や周辺観光地などを巡るモデルコース等を企画・設定し、登山道だけでなく、山麓への周遊を推進する。 			
			
<p>山梨県立富士山世界遺産センター</p>	<p>静岡県富士山世界遺産センター</p>		
			
<p>モデルコースの一例</p>	<p>浅間神社</p>		
			
<p>山麓から続く「登山道」を辿る</p>	<p>ガイドパンフレット</p>		

山麓からの登山の推奨	文化的伝統 の継承	展望景観 の維持	安全性・ 快適性の確保
<p>・山麓からの伝統的な登山の普及を図るため、吉田口登山道の中ノ茶屋及び馬返しにおける案内所・休憩所の設置・運営をはじめ、仮設トイレの設置などの環境整備を行うとともに、パンフレット・webサイト・SNS等での情報発信を強化する。</p>			
			
中ノ茶屋		富士山おやすみ処	

弾丸登山の自粛要請	文化的伝統 の継承	展望景観 の維持	安全性・ 快適性の確保
<p>・登山者の安全を確保するとともに、山頂での混雑を解消するため、事前に十分な休息を取らず、夜通し登山を行う「弾丸登山」について、その危険性などの周知を測るとともに、五合目へ向かうシャトルバスの運行時間の見直しなど、さらに積極的な抑制策を検討・実施する。</p>			
シャトルバス運行時間の見直し状況			
	吉田口	富士宮口	須走口
運行ルート	北麓駐車場 吉田口五合目	水ヶ塚駐車場 富士宮口五合目	須走多目的広場 須走口五合目
2014年 (平成26年)		全日 6:00～22:00(30分間隔)	全日 5:00～22:00(30分間隔)
2015年 (平成27年)	金・土曜日・祝前日 4:30～19:00 上記以外 5:30～22:00	金・土曜日・祝前日 6:00～ <u>20:00</u> (30分間隔) 上記以外 6:00～22:00(30分間隔)	金・土曜日・祝前日 5:00～ <u>20:00</u> (30分間隔) 上記以外 5:00～ <u>21:00</u> (30分間隔)
2016年 (平成28年)	金・土曜日・祝前日 4:30～ <u>19:30</u> 上記以外 5:30～ <u>19:30</u>	全日 6:00～ <u>20:00</u> (30分間隔)	全日 5:00～ <u>20:00</u> (30分間隔)



登山口や山小屋等における文化的伝統・価値の普及啓発	文化的伝統の継承	展望景観の維持	安全性・快適性の確保
<p>・多くの登山者の登山の起点となる登山口や宿泊する山小屋等において、富士山の伝統的な登山や富士山の文化的価値などに関する資料配付、展示・レクチャー、世界遺産センターへの誘導などの実施を検討する。</p>			
			
山小屋内の神棚		起源等を記した説明板	

人工構造物の修景手法の検討	文化的伝統の継承	展望景観の維持	安全性・快適性の確保
<p>・登山者等の安全対策及び登山道の保全のために整備している、落石防護壁などの人工構造物について、周辺山岳環境や展望景観に配慮し、さらなる修景手法の検討を進める。</p>			
			
修景の一例（壁面緑化の例）		岩室の風情を残した山小屋の外観	

外来植物の侵入防止	文化的伝統の継承	展望景観の維持	安全性・快適性の確保
<p>・外来植物の繁殖による急激な生態系や景観の変化を防止するため、登山口やバス乗降場などに、種子の防除マット・ブラシを設置する。</p>			
			
富士宮口登山道		須走口登山道	

登山道パトロールの実施	文化的伝統 の継承	展望景観 の維持	安全性・ 快適性の確保
			()
<p>・登山道の維持、登山者の安全確保及び富士山の景観保全のため、登山期間中に定期的な登山道パトロールを実施する。登山道・標識等に破損等の不具合を確認した場合には、速やかに修繕を実施し、安全と景観の維持確保を図るとともに、破損等の箇所・状況・処理内容について記録し、継続的な維持管理に活用する。</p>			
<p>登山道パトロールの実施状況</p>			

登山口における情報提供及び登山マナーの普及啓発	文化的伝統 の継承	展望景観 の維持	安全性・ 快適性の確保
<p>・各登山口やバス車内等において、説明やチラシ等の配付、ビデオ放映により、装備品の確認、登山道の特性、ごみの持ち帰りなど、安全・安心な登山を行うための情報提供を行うとともに、登山マナーの啓発を行う。</p>			
<p>五合目におけるマナー啓発</p>		<p>ビデオ放映</p>	

清掃活動・ゴミ対策の継続的な実施	文化的伝統 の継承	展望景観 の維持	安全性・ 快適性の確保
<p>・関係行政機関、民間団体、ボランティアによる清掃活動を継続し、保全意識を高めるとともに、ルールやマナーの定着を図る。また、不法投棄の監視体制を強化する。</p>			
			
ボランティア等による清掃活動		不法投棄監視カメラの設置	

安全誘導員等の配置	文化的伝統 の継承	展望景観 の維持	安全性・ 快適性の確保
<p>・道幅が狭く、登山者が集中して混雑を引き起こしやすい箇所を中心に、登山者の誘導や安全指導を行う誘導員を配置し、山頂での御来光を目指す登山者の事故防止や渋滞緩和を図る。また、須走口と吉田口の下山道分岐点において、道間違いが起きないように、人的誘導を行う。</p>			
			
富士宮口山頂付近の様子		吉田・須走口下山道の様子	

登山者の平準化に向けた混雑情報等の提供	文化的伝統 の継承	展望景観 の維持	安全性・ 快適性の確保

- ・ 特定の曜日、時間帯、場所に集中している登山者の平準化を図るため、あらかじめ混雑が予想される日時及びその際に予想される状況などについて、パンフレットやw e b サイトにおいて情報提供し、登山計画の変更を促す。





登山シーズン中の混雑予想を知らせるチラシ



富士登山オフィシャルサイト <http://www.fujisan-climb.jp>

登山シーズン中の混雑予想を知らせる web サイト

五合目に至る道路のマイカー規制の実施 と規制期間の見直し	文化的伝統 の継承	展望景観 の維持	安全性・ 快適性の確保		
<ul style="list-style-type: none"> 富士山の来訪者にとって渋滞のない安全で快適な交通を確保するとともに、富士山の環境を保全することを目的に実施している、富士山スカイライン（富士宮口）富士あざみライン（須走口）及び富士スバルライン（吉田口）におけるマイカー規制について、当年度の実施状況を踏まえ、翌年度の規制期間等について検討する。 					
マイカー規制の実施状況					
	2014年 (H26)	2015年 (H27)	2016年 (H28)	2017年 (H29)	2018年 (H30)
富士山スカイライン (富士宮口)	63日間	63日間	65日間	63日間	
富士あざみライン (須走口)	40日間	47日間	63日間	63日間	
富士スバルライン (吉田口)	53日間	53日間	53日間	63日間	

弾丸登山者等の効果的なコントロール手法の検討	文化的伝統 の継承	展望景観 の維持	安全性・ 快適性の確保
<ul style="list-style-type: none"> 多くの登山者が集中する週末の御来光時間帯の山頂付近の混雑を緩和するため、特に夜通し登山を行う「弾丸登山者」を抑制することを目指し、関係者らとともに効果的な管理手法を多角的に検討する。 			
			
看板の設置		シャトルバス発着所	

6章 モニタリングの実施

来訪者管理の目標として定めた「望ましい富士登山の在り方」の達成状況を把握するため、設定した指標と指標ごとの水準、水準達成を目的として実施する対策について、概ね5年ごとに評価・見直しを行うこととしている。

本章においては、特に指標ごとに定める水準の達成状況を把握するために実施するモニタリングの具体的方法、実施主体等について示すこととする。

1. 基本方針

指標及び水準については、長期にわたり継続的にモニタリングを実施することが必要なため、機器や人件費に過度な経費を必要としないこと、同じ方法でモニタリングを実施できることを基本とした。

2. 方法

今回設定した指標のモニタリングについては、「アンケート調査」、「登山者数調査」、「現地職員による記録」、「法的手続き上の届出」、「景観変化の観察」により実施することとしており、以下にその詳細を示すこととする。

(1) アンケート調査

山梨県・静岡県は、簡易的な手法を用いた登山者へのアンケート調査を実施する。具体的には、「調査依頼カード」を富士山保全協力金の徴収時等に配布し、自身のモバイル機器からアンケートに回答してもらうモバイルアンケートを実施する。

なお、2015年（平成27年）から実施してきた各登山道の五合目に配置した現地調査員による聞き取り調査は、多額の経費を必要とし、恒常的なモニタリングには適さないことから、今回採用しないこととした。

また、モバイルアンケートについては、2017年（平成29年）の調査時に聞き取り調査と並行して実施し、有効性についても検証済みである。

富士山登山者意識アンケートにご協力ください。抽選で3000円相当の静岡県の特産品を30名様にプレゼント！

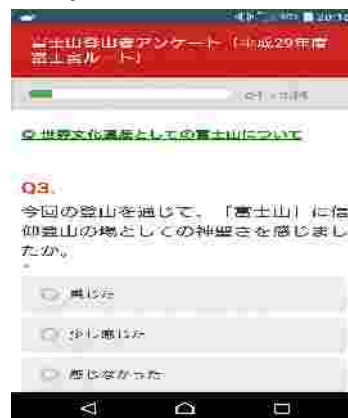


スマートフォンやタブレットでQRコードを読み込むか、以下のアドレスにアクセスしてご回答ください（回答時間5分程度）

<https://questant.jp/q/FUJISAN>

静岡県

調査依頼カード



アンケート入力画面

表8 アンケート調査による指標（再掲）

指標	水準 (H31の目 標値)	測定内容・手法	実施主体
伝統な登拝の登山形態と同様に、山小屋で休息してから山頂で御来光を拝む登山者の割合	80%以上	御来光を山頂で見たと回答した登山者うち山小屋への宿泊をありと回答した登山者の割合を把握する。	山梨県 静岡県
山麓の神社や湖などを巡ったのちに富士登山をする文化的伝統を知っている登山者の割合	50%以上	以前から知っていた/今回の登山・訪問で知ったと回答した登山者の割合を把握する。	山梨県 静岡県
富士山に「神聖さ」を感じた登山者の割合	90%以上	感じた/少し感じたと回答した登山者の割合を把握する。	山梨県 静岡県
登山道や山頂付近でゴミをよく見かけた登山者の割合	15%以下	ゴミをよく見かけたと回答した登山者の割合を把握する。	山梨県 静岡県
山小屋やトイレなどの登山者への支援施設に不満を感じた登山者の割合	15%以下	富士登山における満足度のうち、「山小屋のサービス・雰囲気」、「トイレの数や設備の状態」にとっても不満/やや不満と回答した登山者の割合を把握する。	山梨県 静岡県

水準を測るためではないが、混雑への許容度、危険を感じた割合は、登山者数に関連する項目としてモニタリングを実施する。

(2) 登山者数調査

登山者数については、富士吉田市が吉田ルートの中合目に設置している赤外線カウンターと環境省が各登山道八合目付近に設置している赤外線カウンターにより把握する。



赤外線カウンターの設置状況

表9 登山者数調査による指標（再掲）

指標	水準 (H31の目標値)	測定内容・手法	実施主体
古くからの巡礼路としてルートが特定されている吉田口登山道における山麓からの登山者の割合	15%以上	吉田口五合目に設置されたカウンターを通過した登山者数を把握する。	富士吉田市
夏山期間を通じて著しい混雑が発生する登山者数/日を超えた日数 吉田口：3,500～4,500人/日 富士宮口：1,500～2,500人/日	対前年減	吉田口及び富士宮口登山道八合目付近に設置されたカウンターを通過した登山者数を把握する。	環境省

(3) 現地職員による記録

富士山レンジャーや文化財保護指導委員等が巡視する際に、人工構造物による景観阻害要因等を目視により把握する。また、須走口五合目に配置されている富士山ナビゲーターが、来訪者への周辺施設の案内等を行う際に、須走口へ間違えて下山した登山者への対応状況を記録することで、道間違えした人数を把握する。



富士山レンジャー



富士山ナビゲーター

表10 現地職員により把握する指標（再掲）

指標	水準 (H31の目標値)	測定内容・手法	実施主体
自然と調和しない人工構造物による登山道沿いの景観阻害	非調和的要素が予見又は発見されない	富士山レンジャー等が巡視の際に目視により確認した阻害要因について把握する。	山梨県 静岡県
下山道間違いの対応人数	対H27比 2割減	吉田口から登山し、須走口に下山した道間違いの登山者に対して、須走口五合目に配置されている富士山ナビゲーターが対応した人数を把握する。	静岡県

(4) 法的手続きの届出件数

登山道及び山頂付近は、文化財保護法及び自然公園法により確実に保護されている。したがって、人工構造物の設置や土地の形質の変更等の場合に必要な行政手続の過程

において、景観阻害要因等を把握する。

表 11 法的手続きの届出件数により把握する指標（再掲）

指標	水準 (H31の目標値)	測定内容・手法	実施主体
自然と調和しない人工構造物による登山道沿いの景観阻害	非調和的要素が 予見又は発見され ない	文化財保護法、自然公園法の現状変更申請手続きにおいて、阻害要因を把握する。	山梨県 静岡県
人的要因による文化財き損届の件数	0件	文化財保護法に基づくき損届の届出件数を把握する。	山梨県 静岡県

(5) 景観変化の観察

定点観測地点に定めた各五合目(御殿場口を除く)から山体への展望景観について、写真撮影により、景観変化を把握する。



吉田口五合目からの景観



富士宮口五合目からの景観

表 12 景観変化の観察により把握する指標（再掲）

指標	水準 (H31の目標値)	測定内容・手法	実施主体
五合目以上における登山道の浸食や植生等の変化による展望景観の変化	負の影響が予見 又は確認されな い	定点観測地点(各五合目)において、視界に入り込む阻害要因について把握する。	山梨県 静岡県 市町

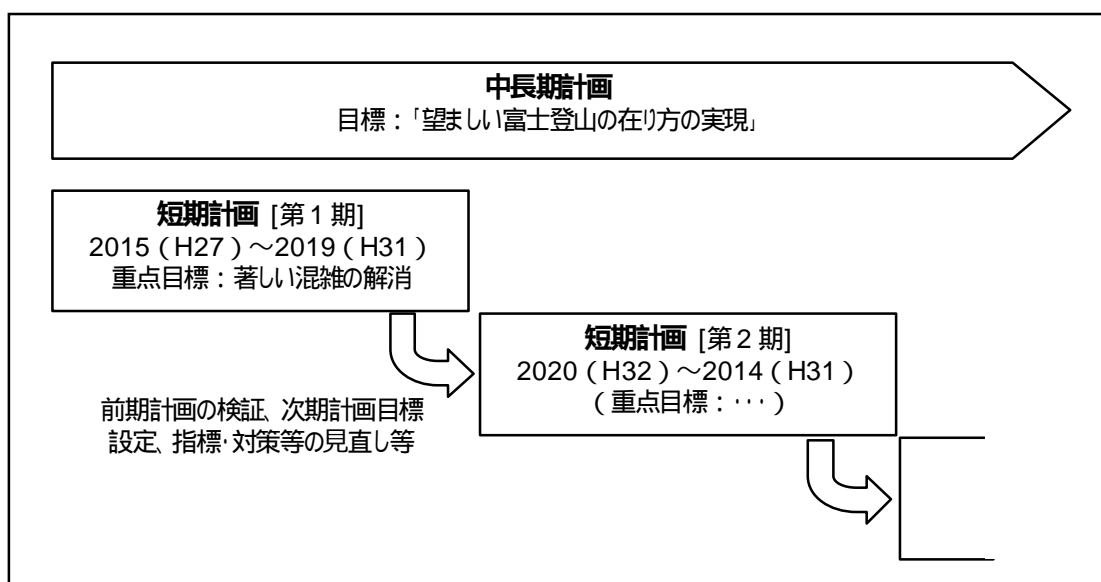
7章 計画期間と推進体制

本章においては、本計画の計画期間及び将来的な計画改定の考え方とともに、その実施に必要な推進体制について示す。

1. 計画期間

本計画は、「望ましい富士登山の在り方」の実現を中長期的な計画の目標としつつ、2015年（平成27年）を起点とした5年間を短期の計画期間とする。

計画最終年度には、指標・水準の達成状況を評価するとともに、必要に応じて次期計画期間における重点目標の設定や指標・水準の見直しを行う。



2. 計画改定の視点（指標・水準の見直しに向けて）

現在確認されている著しい混雑は、極めて限定的に発生していることから、重点的な取組の推進によりその解消が図られた場合には、将来にわたり登山者の数に着目し続けるのではなく、「登山者の利用体験の質の向上」に比重を置いた計画に移行するものとする。

（例）危険・不満を感じない登山者の割合を増やす 等

3. 推進体制

本計画は、来訪者管理戦略の下に策定されたものであることから、「富士山 - 信仰の対象と芸術の源泉ヴィジョン・各種戦略」及び「世界文化遺産富士山包括的保存管理計画」に定めた事業の実施体制と同様に、文化庁・環境省・林野庁との連携のもと、

山梨県・静岡県及び関係市町村を中心とした「富士山世界文化遺産協議会」が、計画の実施状況等を把握し、評価・見直しを進めていく。

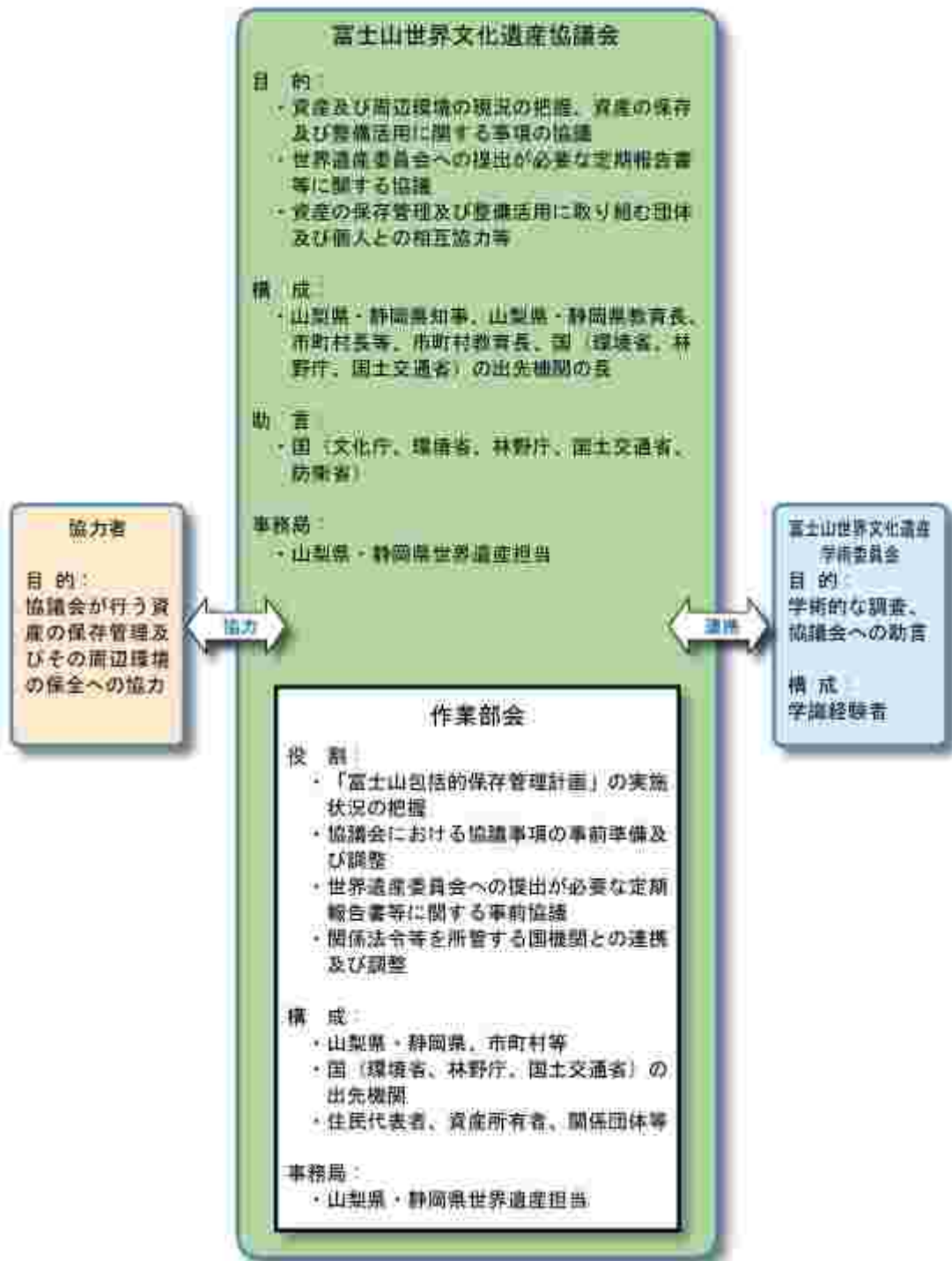


図 11 富士山の包括的保存管理体制

< 参考資料 >

1. 検討体制

山梨県・静岡県は、2015年（平成27年）から、公園管理に識見を持つ学識者、文化庁・環境省、山梨県・静岡県及び調査・研究の受託事業者で構成する収容力勉強会（表1）を開催し、調査内容の検討や調査結果の分析等を行ってきた。

表1 収容力勉強会の構成

区分	氏名	現職	分野
有識者	愛甲 哲也	北海道大学大学院准教授	公園利用
	山本 清龍	岩手大学准教授	公園利用
行政機関	文化庁・環境省、山梨県・静岡県		
協力者	認定NPO法人富士山世界遺産国民会議		

山梨県・静岡県は、指標・水準等の検討にあたり、収容力勉強会において、指標の素案等の作成を行うとともに、2016年（平成28年）11月からは、富士山世界文化遺産学術委員会の委員のうち、世界遺産や公園管理に識見のある5名の委員で構成する小委員会（表2）を開催し、収容力勉強会で作成した指標の素案等について助言をいただいていた。

さらに、富士山世界文化遺産学術委員会の助言や富士山世界文化遺産協議会作業部会などの場を通じた資産所有者、山小屋関係者、地元住民代表の方々の意見を広く伺うなどの合意形成を図り、2018年（平成30年）3月に開催した第10回富士山世界文化遺産協議会において、指標と指標ごとの水準を決定し、同年7月から指標による来訪者管理を開始した。

なお、来訪者管理戦略では、2015年（平成27年）を起点に概ね5年ごとに評価・見直しするとしていることから、2019年（平成31年）の夏山期間終了後、改めて次年度以降の指標・水準等の検討・設定を行うこととしている。

表2 富士山世界文化遺産学術委員会小委員会の構成

区分	氏名	現職	分野
学術委員	稲葉 信子	筑波大学大学院教授	世界遺産・建築学
	岡田 保良	国土館大学教授	世界遺産・建築史
	加藤 峰夫	横浜国立大学大学院教授	公園利用
	西村 幸夫	東京大学大学院教授	世界遺産・都市景観計画
	吉田 正人	筑波大学大学院教授	世界遺産・環境政策
アドバイザー	本中 眞	世界文化遺産アドバイザー	世界遺産
行政機関	文化庁・環境省、山梨県・静岡県		
協力者	認定NPO法人富士山世界遺産国民会議		

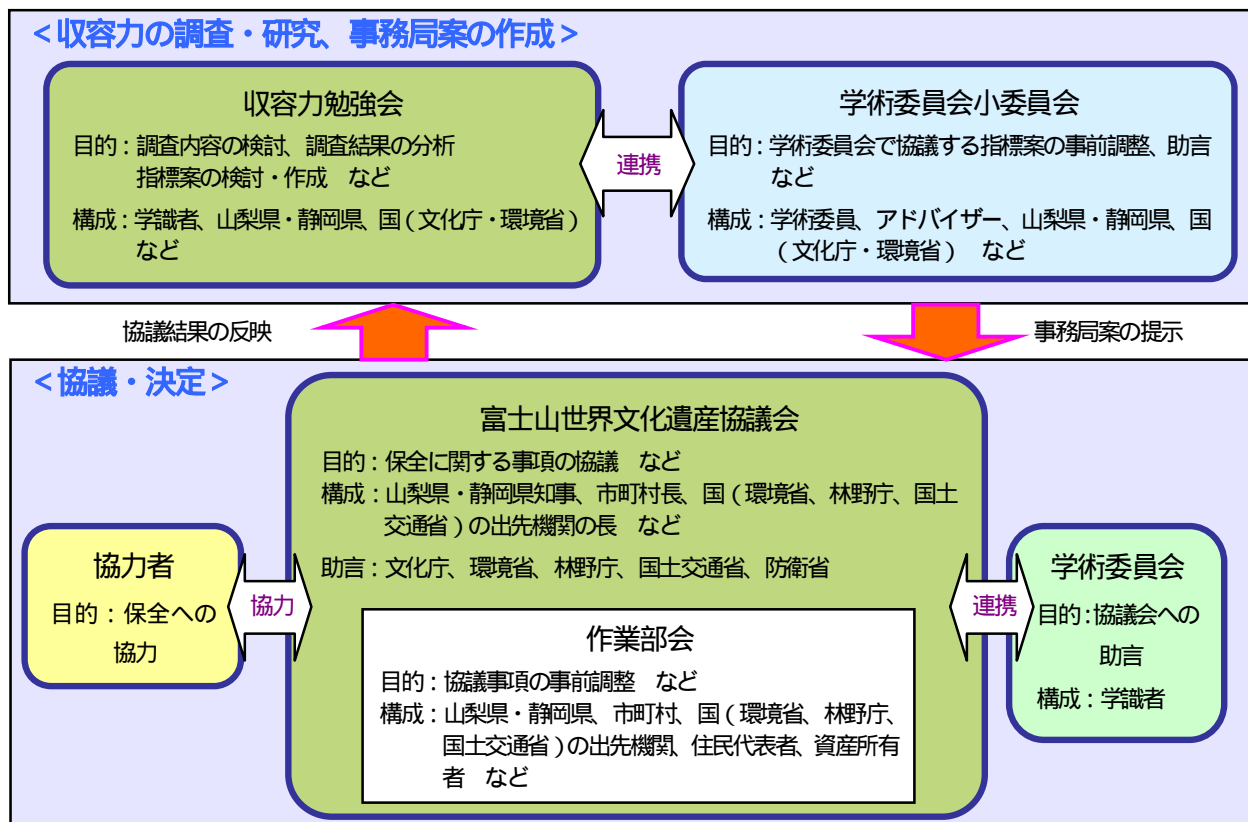


図1 検討体制

2. 調査研究結果

以下、調査研究結果を掲載